

(様式 1)

環境配慮検討書

津建第 677 号
平成 26 年 12 月 4 日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

津建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第 4 条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称		一般国道 163 号 (片田バイパス) 道路改良事業		
連絡先	担当室又は課所名	津建設事務所 事業推進室 大規模事業課		
	担当者職・氏名	課長 上村、技師 岩佐	電話番号	059-223-5230

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1) 名称	一般国道 163 号（片田バイパス） 道路改良事業	
(2) 目的	<p>一般国道 163 号は、大阪府大阪市を基点とし、伊賀市を経て津市に至る延長 54.8km の一般国道であり、伊賀地域及び中南勢地域の産業・観光・生活を支える重要な道路である。</p> <p>当該箇所は、概ね 2 車線が確保されているものの、現道幅員は狭小で、津市美里町及び津市片田町の人家連担地域を通過しているため、交通事故が多発するなど沿道住民の安全かつ円滑な通行の支障となっている。</p> <p>本事業では、バイパス区間と現道拡幅区間を組み合わせ、延長約 6.0km の道路整備を行うことにより、沿道住民の安全かつ円滑な交通の確保を図ることを目的としている。</p>	
(3) 事業主体	三重県	
(4) 計画内容	計画地の位置 位置図を添付	事業箇所：(自)津市美里町五百野 (至)津市片田志袋町 事業延長：L=6.0km
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等)	1)道路規格：第 3 種第 2 級 設計速度：60km/h 道路幅員：2 車線、幅員 6.5(8.0)m 2)計画交通量：8,900 台/日
	用水の使用計画	当事業では、用水の付替等が生じる。
	エネルギーの使用計画	-
	雨水、汚水の排水計画	雨水：道路端部の側溝で集水し、既設の側溝・排水路等の公共水域へ放流する。 汚水：施工時の泥水は、沈砂池を設けるなど直接河川や水路に流出しないよう配慮する。
	道路・交通計画	<p>起点側（美里町側）は、古い町並み(住居)が残されている集落への影響を避け、ほ場整備された区間を通るバイパスとして計画する。</p> <p>中間部の丘陵地は、現道拡幅を基本として計画する。</p> <p>終点側（片田町側）は、現道周辺に街区が形成されており、現道拡幅は影響が大きいため、農道等を利用したバイパス計画とする。バイパスルートにおいては点在する遺跡、霊園及び鉄塔等がコントロールポイントとなる。</p> <p>なお、これらの状況を踏まえ、当計画区間を 4 工区に区分し、人家連担地域の安全かつ円滑な通行を確保するため、第 3 工区を優先して事業を進める予定である。</p>
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5) 関連事業計画	なし	
(6) その他	-	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1) 計画地の社会的条件の現況	交通の現況	<p>対象路線である一般国道 163 号周辺の主要な道路及び交通量は次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>道路種別</th> <th>路線名</th> <th>観測地点</th> <th>平日交通量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般国道</td> <td>163 号</td> <td>津市美里町平木</td> <td>2,529 台/日</td> </tr> <tr> <td>一般国道</td> <td>163 号</td> <td>津市殿村</td> <td>21,480 台/日</td> </tr> <tr> <td>主要地方道</td> <td>亀山白山線</td> <td>津市美里町穴倉</td> <td>618 台/日</td> </tr> <tr> <td>主要地方道</td> <td>久居河芸線</td> <td>津市野田</td> <td>10,111 台/日</td> </tr> <tr> <td>一般県道</td> <td>上稲葉羽野線</td> <td>津市戸木町羽野</td> <td>7,451 台/日</td> </tr> <tr> <td>一般県道</td> <td>片田井戸久居線</td> <td>津市戸木町狐塚</td> <td>9,872 台/日</td> </tr> <tr> <td>一般県道</td> <td>家所阿漕停車場線</td> <td>津市産品</td> <td>3,094 台/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：平成 22 年度道路交通センサス 一般交通量調査(三重県) 公共交通機関：対象路線は三交バス路線(長野・殿舟団地線)津市コミュニティーバス(美里地域)</p>	道路種別	路線名	観測地点	平日交通量	一般国道	163 号	津市美里町平木	2,529 台/日	一般国道	163 号	津市殿村	21,480 台/日	主要地方道	亀山白山線	津市美里町穴倉	618 台/日	主要地方道	久居河芸線	津市野田	10,111 台/日	一般県道	上稲葉羽野線	津市戸木町羽野	7,451 台/日	一般県道	片田井戸久居線	津市戸木町狐塚	9,872 台/日	一般県道	家所阿漕停車場線	津市産品	3,094 台/日
	道路種別	路線名	観測地点	平日交通量																														
	一般国道	163 号	津市美里町平木	2,529 台/日																														
	一般国道	163 号	津市殿村	21,480 台/日																														
	主要地方道	亀山白山線	津市美里町穴倉	618 台/日																														
主要地方道	久居河芸線	津市野田	10,111 台/日																															
一般県道	上稲葉羽野線	津市戸木町羽野	7,451 台/日																															
一般県道	片田井戸久居線	津市戸木町狐塚	9,872 台/日																															
一般県道	家所阿漕停車場線	津市産品	3,094 台/日																															
土地利用の現況	<p>計画路線の周辺には、集落とほ場整備された水田が広がっている。また、計画予定ルートに沿線には片田団地(人口 2400 人)と片田志袋団地がある。</p> <p>近傍には、白銀環境清掃センターや津市西部クリーンセンターがあり、市内のごみの集積地となっている。また、当路線と接続する県道片田井戸久居線の近傍には片田工業団地と久居工業団地がある。</p> <p>このことから当該地域は、旧津市の西部の中核的な地域であり、現道の沿線には店舗・医療福祉施設・アパート・公民館・警察官駐在所等が点在し、地域の生活・経済等の中心的役割を担っている。</p>																																	
水域利用の現況	<p>沿線近傍の岩田川支川の最上流部には片田浄水場があり、津市の主要な水源となっている。また、片田地区にはため池が多数あり、「片田ため池群」と呼ばれ、農林水産省が募集した全国「ため池百選」に推薦され、「片田・野田のため池群」に選定されている。沿線には、ほ場整備された水田が広がっており、中勢水道・用排水路及び農業用パイプラインが整備されている。</p> <p>なお、当事業では、ため池に影響させない計画となっている。</p>																																	
生活関連施設の現況	<p>1)学校施設：片田小学校・美里さつき保育園・片田幼稚園・片田保育園・鈴の木会片田保育園</p> <p>2)医療施設：まきのクリニック・川村治療院・丸岡医院・はやし歯科</p> <p>3)文化施設：稲葉公民館・吹上集会所・片田久保町集会所・片田町集落センター・津市片田出張所・片田公民館・片田田中町集会所・片田志袋団地集会所</p> <p>4)その他：片田郵便局・JA 津安芸美里支店・JA 津安芸片田支店・片田警察官駐在所</p>																																	
(2) 関係法令等による地域の指定・規制状況	<p>自然環境保全地域(地区)、自然公園地域(区域)、鳥獣保護区の指定状況</p> <p>1)自然環境保全地域の指定：なし</p> <p>2)自然公園地域の指定：なし</p> <p>3)鳥獣保護区の指定：なし</p>																																	
	<p>土地利用規制の現況</p> <p>都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況</p> <p>1)都市計画法：規制なし</p> <p>2)農業地域振興法：規制あり(農用地区域)</p> <p>3)森林法等：規制あり(森林地域)</p> <p>4)砂防法等：規制なし</p> <p>5)河川法：規制あり(河川区域：岩田川)</p> <p>6)地すべり等防止法：規制なし</p> <p>7)文化財保護法：規制あり(遺跡範囲内又は隣接)</p> <p>8)津市景観計画：規制あり(田園景観ゾーン)</p>																																	

3 計画地の自然的条件の現況等

(1) 地形・地質	文献調査	文献名	土地分類基本調査「津西部・津東部」三重県平成2年2月 (地形分類図、表層地質図、) 「津西部地域の地質」地質調査所 平成7年 「三重県内活断層図(中南勢地域)」 三重県防災HP 「地滑り地形分布図津西部」 防災科学技術研究所HP							
	現地調査の有無	有・無(実施日時 年 月)	聴取調査の有無	有・無						
	調査結果等	<p>地形：</p> <p>本計画地は、長谷丘陵と一志丘陵に挟まれた地域で、伊勢湾西岸部に広がる高位段丘地形を形成している。岩田川の浸食作用により、片田団地から津市街方面には、沖積層が広く分布する平坦な地形となっており、水田として利用され、耕作地が広がっている。また、計画地周辺には地滑り地形等は確認されていない。</p> <p>地質：</p> <p>片田団地の西側には南北方向に走る庄田断層が確認されており、計画地域では断層を境にし、地質が大きく変化している。一志断層以東では未固結の段丘堆積物や半固結の堆積物からなる亀山類層が分布している。</p> <p>一方、一志断層以西では、一志層群の堆積岩や白亜紀後期の領家変成岩類(黒雲母片麻岩及びホルンフェルスなど)と深成岩類(トータル岩・花崗閃緑岩など)などの基盤層が分布している。</p>								
(2) 水象	文献調査	文献名								
	現地調査の有無	有・無(実施日時 年 月)	聴取調査の有無	有・無						
	調査結果等 河川・湖沼	<p>計画地及びその周辺における主要な河川としては、二級河川岩田川があり、片田志袋町には準用河川細石川がある。また、起点側の美里町五百野では、準用河川五百野川が対象路線の現道部を横断し、一級河川雲出川水系長野川に合流している。</p> <p>また、計画地周辺には、ため池が点在し、用水の水源として利用されている。</p>								
	海域									
(3) 気象・大気質等	調査の方法	津観測所気象統計情報(H23) 平成25年度版環境白書 三重県 平成24年度津市環境調査結果								
	調査結果	<p>1) 気象</p> <table border="1"> <tr> <td>気温</td> <td>平均気温：16.5 (2013年) 最高気温：38.5 (2013年8月11日) 最低気温：-1.5 (2013年1月12日)</td> </tr> <tr> <td>降水量</td> <td>年間降水量：1,393.5mm/年(2013年) 月別降水量：最大306.5mm/月(10月) 最小34.5mm/月(11月) 日別降水量：最大85.5mm/日(10月20日) 時間降水量：最大29.5mm/時(4月6日)</td> </tr> <tr> <td>風向・風速</td> <td>平均風速：3.5m/s 最大風速：19.9m/s 最大風向：東</td> </tr> </table> <p>出典：「気象観測データ」気象庁ホームページ</p>				気温	平均気温：16.5 (2013年) 最高気温：38.5 (2013年8月11日) 最低気温：-1.5 (2013年1月12日)	降水量	年間降水量：1,393.5mm/年(2013年) 月別降水量：最大306.5mm/月(10月) 最小34.5mm/月(11月) 日別降水量：最大85.5mm/日(10月20日) 時間降水量：最大29.5mm/時(4月6日)	風向・風速
気温	平均気温：16.5 (2013年) 最高気温：38.5 (2013年8月11日) 最低気温：-1.5 (2013年1月12日)									
降水量	年間降水量：1,393.5mm/年(2013年) 月別降水量：最大306.5mm/月(10月) 最小34.5mm/月(11月) 日別降水量：最大85.5mm/日(10月20日) 時間降水量：最大29.5mm/時(4月6日)									
風向・風速	平均風速：3.5m/s 最大風速：19.9m/s 最大風向：東									

2) 水質

岩田川 (五五六橋)

項目	平均値	環境基準	環境基準適合
pH	7.5	6.5~8.5	
BOD(mg/l)	2.6	3以下	
SS(mg/l)	4	25以下	
DO(mg/l)	9.5	5以上	
全窒素(mg/l)	1.8		-
全リン(mg/l)	0.27		-
大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.3×10^4	5000以下	×

出典「平成24年度環境調査」津市

3) 大気

ダイオキシン類 (平成24年度) (単位: pg-TEQ/m³)

調査地点	測定結果	環境基準	環境基準適合
美里総合支所	0.011	0.6以下	

出典「平成24年度環境調査」津市

二酸化硫黄 (平成24年度) 単位 (ppm)

調査地点	年平均	日平均値の 2%除外値	環境基準適合
津西が丘小学校	0.002	0.003	

基準値: 1時間値の1日平均が0.04ppmを超えた日が2日以上連続しない

出典「平成25年度環境白書」三重県

二酸化窒素 (平成24年度) 単位 (ppm)

調査地点	年平均	日平均値の 年間98%値	環境基準適合
津西が丘小学校	0.008	0.019	

基準値: 1時間値の1日平均が0.04から0.06ppmまでのゾーン内以下

出典「平成25年度環境白書」三重県

浮遊粒子状物質 (平成24年度) 単位 (mg/m³)

調査地点	年平均	日平均値の 2%除外値	環境基準適合
津西が丘小学校	0.025	0.057	

基準値: 1時間値の1日平均が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続しない

出典「平成25年度環境白書」三重県

4) 騒音

騒音 (平成24年度) 単位 (dB)

測定内容	地点名	地域 類型	等価騒音レベル		環境基準	
			昼間	夜間	昼間	夜間
環境騒音	久居総合支所	C	53	44	60	50
自動車 交通騒音	一般国道165号 津市高茶屋小森町	C	71	65	70	65

出典「平成25年度環境白書」三重県

5) 振動

振動 (平成24年度) 単位 (dB)

測定内容	地点名	地域 類型	等価騒音レベル		環境基準	
			昼間	夜間	昼間	夜間
自動車 交通振動	一般国道165号 イオン久居前	商業 地域	44	38	65	60

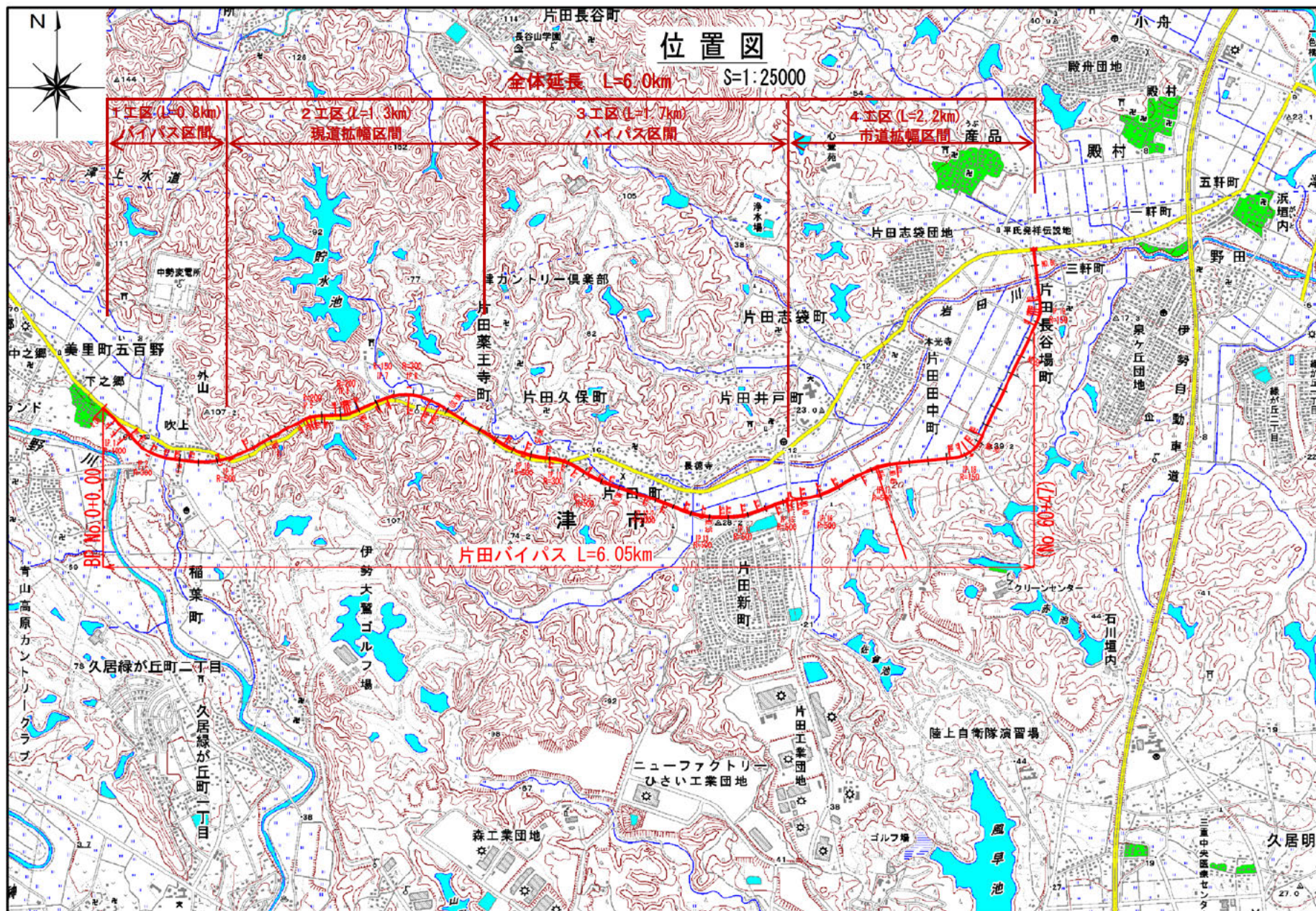
出典「平成25年度環境白書」三重県

(4) 生態系	文献調査	文献名	「三重県レッドデータブック 2005(動物、植物・キノコ)」三重県 2006年3月 「つし自然ガイドブック」津市 2013年3月	
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 (実施日時)	聴取調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 植物	<p>植生の概要： 計画地周辺は丘陵地及び田園地帯であり、際立った樹木や湿原などはないが、ため池などの明るい丘陵地帯は多種の植生が広がり、動物などの生息域になっている。</p> <p>レッドデータブックに記載された 642 種類の植物（種子植物・シダ植物）の内、津市内では 159 種類が確認されている。 片田町ではイシモチソウ(類)、ササユリ(NT)、キキョウ(NT)、イヌセンブリ(類)、イワカガミ、ノアザミなど レッドデータブックに記載された 68 種類のキノコの内、津市内では 19 種類が確認されている。 片田町ではナガグロモリカサ、アクニオイタケ、ヒイロタケ、テングタケ、ツルタケなど 出典「つし自然ガイドブック」津市 2013年3月</p> <p>保全対象の貴重な植物群落： 現地踏査時には、確認されていない</p>		
動物	<p>動物相の概要： 沿線には神社仏閣が多く、鎮守の森等が残され、古墳群跡は公園となっており、里山に生息する小動物の生息環境が残されている。</p> <p>レッドデータブックに記載された 24 種類の哺乳類の内、津市内では 15 種類が生息している。 美里町平木のテングコウモリ(類)、コキクガシラコウモリ(類)、美里町川上・丹生俣のヒメヒミズ(類)、片田町のカヤネズミ、ノウサギ、シカ、ニホンザルなど レッドデータブックに記載された 75 種類の鳥類の内、津市内では 44 種類が確認されている。 片田町では、フクロウ(NT)、ヒバリ、キジ、カワセミなど レッドデータブックに記載された 5 種類の爬虫類の内、津市内では 4 種類が確認されている。 片田町では、ニホンカナヘビ、ヒバカリ、シマヘビ、ヤマカガシ、マムシ、アカミミガメなど レッドデータブックに記載された 9 種類の両生類の内、津市内では 8 種類が確認されている。 片田町では、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、ヌマガエルなど レッドデータブック記載されたものの内、津市内では 150 種類の昆虫が確認されている。 片田町では、ハナアブ、ハチ、カマキリムシなど 出典「つし自然ガイドブック」津市 2013年3月</p> <p>保護対象の貴重な動物生息地： 現地踏査時には、確認されていない</p>			

(5) 自然景観 ・文化財等	文献調査	文献名	「指定文化財一覧」三重県ホームページ 「津市の文化財」津市ホームページ 三重県津市遺跡地図_津市教育委員会_2011年 津市景観計画(平成25年12月20日)	
	現地調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無(実施日時)	聴取調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要： 計画区域は丘陵地帯に挟まれた水田地帯に集落が点在しており、のどかな田園風景が残された地域である。 片田地区にはため池が多数あり、「片田ため池群」と呼ばれ、「片田・野田のため池群」として、農林水産省が募集した全国「ため池百選」に選定されている。</p> <p>貴重な自然景観：「片田ため池群」</p>		
	文化財、史跡、 名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：</p> <p>1) 史跡： 計画地周辺では、津市の史跡に指定されている高井古墳(古墳時代、昭和33年指定)がある。 また、文化財等の指定外ではあるが、外山城跡・片田城跡(中世の城館跡)がある。</p> <p>2) 名勝： 計画地周辺には指定された名勝は無い。</p> <p>3) 埋蔵文化財包蔵地： 文化財等の指定外ではあるが、下の郷A・B遺跡、八反垣内遺跡、井戸B遺跡、新畑遺跡、志保遺跡など埋蔵文化財の多い地域であるが、計画路線は通過しない。</p> <p>4) 文化財： 計画地周辺には指定された文化財はない。</p> <p>5) 天然記念物： 計画地周辺では長野川にネコギギの生息が確認されているが、本計画では長野川に影響はありません。</p>		
	野外レクリエーション他	<p>・津市の水道の歴史や仕組みを展示パネルや映像で学ぶことを目的とした「津市水道資料館」が片田貯水池の南にある。</p> <p>・津市片田地区は県下最大規模の梅の産地で、2月下旬～3月上旬は農家の善意で無料開放される「白銀梅林(片田梅林)」がある。</p>		
(6) その他、自然 災害等		<p>「三重県土砂災害情報システム」によると対象路線は土石流危険渓流氾濫域を通過しない。また、計画地周辺には急傾斜地崩壊危険箇所がある。</p> <p>「地滑り地形分布図」によると、対象路線の周辺には地滑り地形は確認されていない。</p> <p>出典：独立行政法人 防災科学技術研究所ホームページ</p>		

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

※用地選定が異なる計画、同じ用地での事なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。



	事業計画案	比較検討案	比較検討案
(1)計画の概要	<p>起点側約2kmは現道幅を基本とし、終点側は沿線の既存街区への影響を避け、南側農道及び市道を拡幅する案である。</p> <p>道路規格及び信号機速度：第3種第2級 信号機速度60km/h</p> <p>路線延長：L=6,047m</p> <p>橋梁延長：L= 83m (6橋)</p>	<p>起点側約2kmは現道幅を基本とし、終点側は沿線の既存街区への影響を避け、南側農道を通過する案である。</p> <p>道路規格及び信号機速度：第3種第2級 信号機速度60km/h</p> <p>路線延長：L=5,854m</p> <p>橋梁延長：L= 146m (9橋)</p>	<p>全線に渡って、現道幅を基本とした案である。</p> <p>道路規格及び信号機速度：第3種第2級 信号機速度60km/h</p> <p>路線延長：L=5,610m</p> <p>橋梁延長：L= 56m (9橋)</p>
<p>(2)環境評価(*左欄に 相対評価を記入し、右欄に評価の理由を記入)</p> <p>環境を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎと潤いのある快適な環境の創造</p> <p style="text-align: center;">別紙図面参照</p>			
-1 地球温暖化防止 -2 廃棄物対策 -3 生活環境の保全 -4 その他の重点項目	<p>現道に比べ、幅員が確保され、滑らかな線形となることで走行性が改善され、排気ガスが抑制される。</p> <p>家屋等の撤去は少ないが、丘陵地を掘削するため、伐木による産業廃棄物が発生する案である。</p> <p>沿線集落への影響が少なく、現市道及び農道を利用することで農地への影響が最も軽減される。</p> <p>現市道及び農道の規制が必要となるが、橋梁などの構造物が少なく、排水への影響も最も小さくなる。なお、用水への影響は生じる。</p>	<p>現道に比べ、幅員が確保され、滑らかな線形となることで走行性が改善され、排気ガスが抑制される。</p> <p>家屋等の撤去、伐木共に少なく、産業廃棄物の発生が最も少なくなる案である。</p> <p>沿線集落への影響が少なく、農地への影響が最も大きくなる。</p> <p>橋梁等が多いが、現市道及び農道の規制は最も少なく、排水への影響も最も小さくなる。なお、用水への影響は生じる。</p>	<p>現道に比べ、幅員が確保され、滑らかな線形となることで走行性が改善され、排気ガスが抑制される。</p> <p>家屋等の撤去が多く、多量の産業廃棄物が発生する案である。集落への影響が大きく、建物などの補償対象が44件(他案の5~10倍)で既存街区への影響が大きい。</p> <p>現道の規制が必要であるうえ、橋梁などの構造物の施設更新が必要となるため、排水への影響も最も大きくなる。なお、用水への影響は最も小さい。</p>
-1 野生生物等の生育空間の確保 -2 希少な野生生物の保護 -3 地形、地質等の改変の抑止 -4 その他の重点項目	<p>既存道路の拡幅を主体としており、丘陵部の一部自然環境の改変が生じるが、周辺の里山環境への影響は小さい。</p> <p>希少な野生動植物が確認された場合は、保護についての関係機関協議を行い、保護対策に努める。</p> <p>丘陵部の切土が発生するが、土バランスポットを確保することで、切土による全体としての地形の改変を抑制した。</p> <p>- 特になし</p>	<p>農地を通過することを主体としているため、農地の改変、新設橋梁等により、周辺の里山環境への影響は大きい。</p> <p>希少な野生動植物が確認された場合は、保護についての関係機関協議を行い、保護対策に努める。</p> <p>丘陵部の切土が発生は最も小さいが、土バランスポットが悪く、盛土に伴う地形の改変が大きくなる。</p> <p>- 特になし</p>	<p>現道幅を主体としているため、丘陵部の一部自然環境の改変が生じるが、周辺の里山環境への影響は小さい。</p> <p>希少な野生動植物が確認された場合は、保護についての関係機関協議を行い、保護対策に努める。</p> <p>丘陵部の切土が発生し、土バランスポットは悪いが、全体的な切土の改変は最も小さい。</p> <p>- 特になし</p>
-1 緑化、周辺景観との調和 -2 親水等、ふれあい空間づくり -3 その他の重点項目	<p>丘陵部の切土面は、地域在来種を使用した法面緑化により周辺環境との調和を確保する。また、橋梁などの構造物が小規模で少ないため、影響も最も小さくなる。</p> <p>- 特になし</p> <p>- 特になし</p>	<p>丘陵部の切土面は、地域在来種を使用した法面緑化により周辺環境との調和を確保する。また、耕地の中間に新たな盛土構造物の設置ができ、周辺環境への影響が大きくなる。</p> <p>- 特になし</p> <p>- 特になし</p>	<p>丘陵部の切土面は、地域在来種を使用した法面緑化により周辺環境との調和を確保する。また、橋梁などの構造物も多いため、影響が最も大きくなる。</p> <p>- 特になし</p> <p>- 特になし</p>
上記以外の特記事項	- 特になし	- 特になし	- 特になし

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	<p>事業計画案は、現道拡幅部とバイパス部を組み合わせたルートであり、丘陵部は、現道拡幅であるため、自然環境への影響は最低限に抑えられ、また、バイパス部は、市道や農道を利用した道路計画であるため、農地へ影響も最小限度に抑えられる。</p> <p>供用後は、交通の円滑化による地球温暖化の防止及び生活環境の保全に寄与する。</p>
短所	<p>丘陵地の切土面は、事業計画案及び比較検討案においても生じるが、地域在来種を使用した法面緑化等により周辺環境との調和を確保するなどの対策が必要となる。</p> <p>また、丘陵部を通過するため、里山の小動物の生息環境への影響についても、検討する必要がある。</p>
会議で調整を要する事柄	

